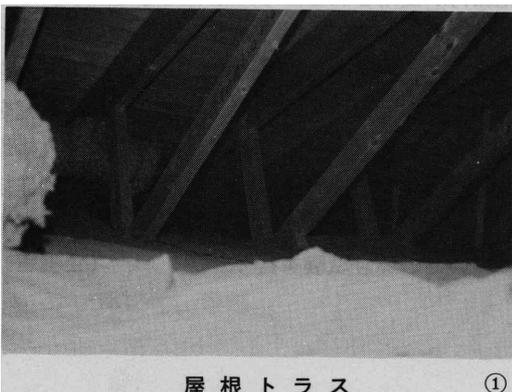
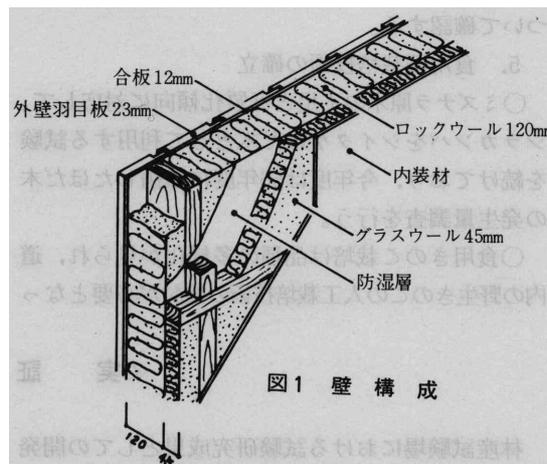


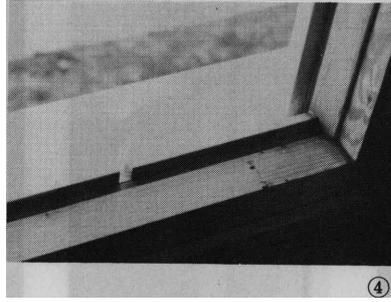


スウェーデンのモデルハウスが北海道に建てられており、それを見る機会があったので簡単に紹介します。

この建物は、昭和56年11月に札幌郊外の当別町高岡に建てられました。モデルハウスは2棟あり平屋建てと一部2階建ての2タイプがあります。建主は近々このスウェーデンハウスによるニュータウン「スウェーデン村」建設の計画をもっており、そのモデルハウスとして、建築資材のみならず設備類や家具に至るまですべてを輸入したそうです。建築資材の多くは部品化され、壁やトラスは組み立てられた状態で、またドアや窓などは完成品の形で運ばれました。

まず、その構造から説明します。く体は木造枠組壁工法で、小屋組みは木製トラス(メタルプレート接合...写真 )です。外壁材はたて羽目板、屋





建具類

根はスウェーデン製瓦です。土台は加圧注入防腐処理材を使用しています。耐力壁は合板12mmと枠材 120×45mmで構成されています。壁構成は図1のようになっており、耐力壁部分 120mmにロックウール、さらに45mmのグラスウール層を使って計165mmの断熱層を設けてあります。

内装には木がふんだんに使われており、暖かみを感じます。天井もほとんど羽目板が使われています。壁の羽目板(写真)はカンナ仕上げしてありましたが、天井はノコびきのままの状態使われています。ドア枠や窓枠の材料は、死節と思

われる所を埋め木した節のあるものを使用していました。

ドア類・窓などの建具は完成品の形で輸入されています。おそらく工場で品質管理をしっかりとしていると思われます。これらは皆造りがしっかりしており、金具類も相応の立派な物が取り付けられています。玄関の木製断熱ドア(写真)は厚さが約6cmあり、窓はすべて三重のガラス窓(写真、)で気密性も高いものと思われます。

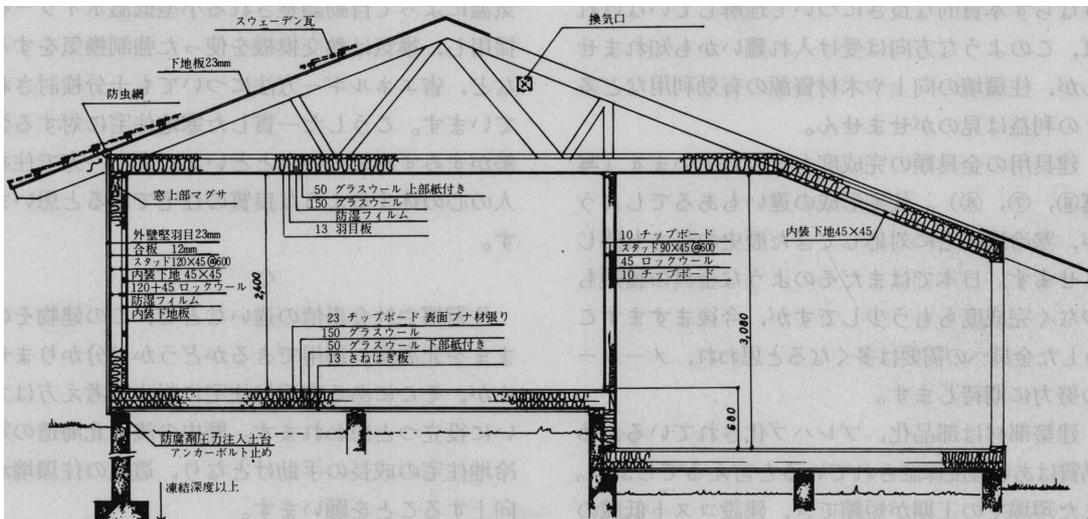
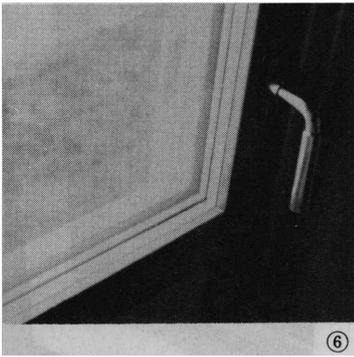
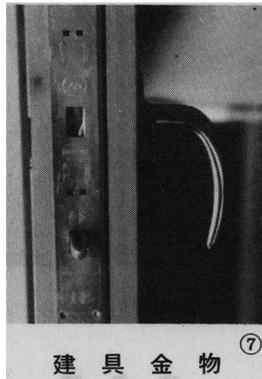


図2 断面図(平屋建て)



⑥



⑦



⑧

以上が大まかな建物の様子です。この建物を見て気づいた点ですが、とにかく過剰な装飾がほとんどなく、質実剛健で実用一点張りという所です。しかし、必要最小限の加工や材料で建物を構成していますが、建物の内外の雰囲気は暖かみがあり、また機能も追求されています。

平屋建ての居間の部分は床がほかの部分より50cmほど低く、その分天井に余裕のある豊かな空間を演出しています。一方、天井の羽目板のような人が接触しない所の材料は表面仕上げを省いたり、ドアなどの材料に有節材を使用するなど、日本の住宅ではいままで考えられないことでしたがこうした徹底した合理性の追求には見ならう所が多いと思われます。住み手が木の表面的な良さのみならず本質的な良さについて理解していなければ、このような方向は受け入れ難いかも知れませんが、住環境の向上や木材資源の有効利用など多くの利益は見のがせません。

建具用の金具類の完成度もすぐれています(写真、)。住宅形成の違いもあるでしょうが、寒冷地住宅に対応してきた歴史の長さも感じさせます。日本ではまだそのような金具の種類も少なく完成度ももう少しですが、今後ますますこうした金具への需要は多くなると思われ、メーカーの努力に期待します。

建築部材は部品化、プレハブ化されているため品質はある程度保証されていると言えるでしょう。また現場での工期が短縮でき、建設コスト低減の可能性も大きいと思われれます。

現在のところ、このような日本の規格と違った部材を使用したユニークな住宅に取り組んでいるメーカーはありませんが、もし本格的に始めれば一定の需要は見こめるでしょうし、住宅産業や木材業界、ユーザーにも良い刺激を与えられると思います。これからの北海道の住宅を考えていく上で、北欧の厳しい自然の中で約1,000年間も耐寒住宅に取り組んできたスウェーデンの住宅はいろいろと参考になると思います。断熱性はロックウールを床200mm、壁165mm、天井200mmでシンプルに各断熱層をつなぎ、ヒートロスを極力抑えています。建具は木製で、ガラスはペアガラス+シングルガラスの三重を使い、気密性、断熱性、遮音性を増大しています。また暖房器には、室内外の気温によって自動調整される小型低温ボイラーを採用し、換気は熱交換機を使った強制換気をするなど、省エネルギー方法についても十分検討されています。こうした一貫した寒地住宅に称する姿勢がすみずみまでいきとどいた、また一方で住む人の心の休まるような良質の住宅であると思います。

住習慣や社会事情の違いなどで、この建物そのままを北海道に適用できるかどうかは分かりませんが、そこにある寒冷地住宅に対する考え方は大いに役立つと思われます。歴史の浅い北海道の寒冷地住宅の成長の手助けとなり、道民の住環境が向上することを願います。

(林産試験場 長谷川雅浩)